

ココロ踊る！山麓生活のスヌメ(第5回)

家庭菜園1年生 ～まずは開墾から～

2021.08.20

朝起きたら、庭の小さな菜園へ行って野菜を収穫。そして色とりどりのシャキシャキ野菜を使って食事の準備をする……。土いじりをして、自然の恵みを感じられる暮らしに憧れている私。その1つとして家庭菜園をするのが、長年の夢だった。手に入れた山麓の土地で、まずやってみたかったのが畑作り。ちょうど季節は春。野菜の栽培を始めるのにピッタリの時季だ。

「自産自食」をめざして

とはいえ、数年前にベランダでミニトマトやキュウリをプランター栽培したことがあるくらいで、畑作業の経験や知識はほぼナシ。まずは書店で「家庭菜園の始め方」といった、初心者向けの本を数冊買って、勉強するところからスタートした。いずれは、旬の野菜はスーパーで買わずに、自分で育てたもので賄いたいと思っている。地産地消よりもっとコンパクトに、自分で作って自分で食べる「自産自食」が目標だけれど、さて、うまくいくだろうか。

家庭菜園を始めるにも、道具がなくては何もできない。今、家にあるのは、プランター栽培をするときに買った小さなシャベルが1つだけ。書店の次は、ホームセンターへ行って、スコップと三本鍬(くわ)を買ってみた。これで野原を耕して、畑のスペースを作ろうと思う。



自宅で採れた野菜を使って料理するのが夢(写真はイメージです)

草の根と格闘

作業の日は両親も手伝いに駆けつけてくれた。購入した土地の南側を畑に使うことに決めて、くわを振り下ろす。以前、畑として使われていたからか、もともとそのような地質なのか、30cmほど掘っても小石ひとつ交じっていない。畑にピッタリの土だと思った。

だけど、くわが気持ちよく入るかといえば大違いだった。芝やササ、ススキなどが広く根を伸ばしていて、それを取り除くのに思いのほか苦労する。特にササは、地中深くで固い根がつながっている。スコップで土を掘り起こし、根を切る作業がキツイ。ススキも難敵で、根が深く張っていて、スコップすら刺さらない。そこでくわの刃を振り入れてテコの原理を使い、力ずくで引き抜こうとしたら、買ったばかりのくわの刃があっさり曲がってしまった。トホホ……。



肌寒いくらいの気候なのに、夢中で作業するうちに大汗をかき、気付いたら手にはマメができていた。大人4人が交代で休みながら作業して、2×4mほどの区画を耕すのに丸1日を費やした。私が抱く、のどかな家庭菜園のイメージからは遠く、重労働の開墾そのものだ。でも、できたばかりの小さな畑にジャガイモを植えると、夢のかけらを手に入れた気がして、充実感に満たされた。

耕運機のパワー… 続きを読む